

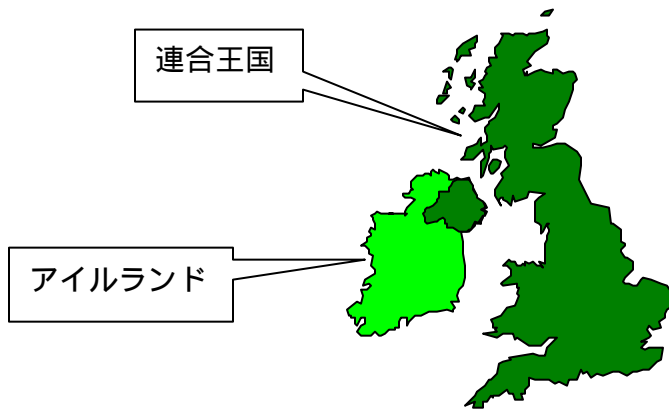
アイルランドの旗のなぞ

1997 . 10 . 29 ~ 池田毅司

1 . きっかけ

小出さん（紋別市・『たの井』発行人）との電子メールのやりとりから，板倉聖宣『世界の国旗』を読むと，アイルランドについて誤解する人が増えるのではないかと思い，レポートすることにしました。

アイルランド島は現在その一部が，連合王国（いわゆるイギリス）の領土となっており，大部分がアイルランドという別の独立国になっています。



2 . いまのアイルランドの旗は，昔とちがう

板倉聖宣『世界の国旗』20 ページにはこう書いてあります。

イギリスの国旗

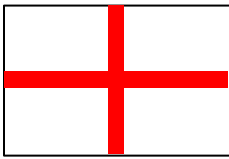
三つもの十字架を一緒にしている国旗というのは，イギリス〔大ブリテン・北アイルランド連合王国〕の国旗です。

日本人は，この国のことを「イギリス」とか「英国」とふつう呼んでいますが，正式の国名は「大ブリテン・北アイルランド連合王国」です。欧米の人々はこの国のことを，「連合王国（United Kingdom，さらに略して U.K.）」と呼んでいます。この国はもともと「イングランド王国」と「スコットランド王国」と「アイルランド王国」の3つの王国が合体してできた国だからです。そこで，この「連合王国」の国旗もその3つの国の国旗を合体して作ってあります。

イングランド王国の国旗は，「聖ジョージの赤十字」と呼ばれる

旗（１）で、スコットランド王国の国旗は、「聖アンドルーの白十字」と呼ばれる旗（２）でした。そこで、この二つの国が 1707 年に合体したときに、その国旗は（３）のように定められました。ところがその後 1801 年には、「パトリックの赤十字」と呼ばれる国旗（４）をもつアイルランド王国も合体することになって、現在のような国旗（５）が出来上がったというわけです。
英国の国旗のことを「ユニオンジャック」と呼ぶことがあります。

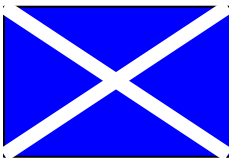
（１）イングランド
（聖ジョージの赤十字）



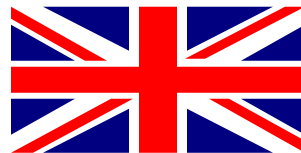
（３）大ブリテン連合王国



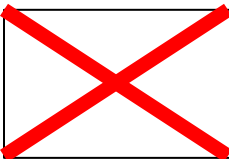
（２）スコットランド
（聖アンドルーの白十字）



（５）大ブリテン・アイルランド連合王国



（４）アイルランド
（聖パトリックの赤十字）



これを読むと、「３つの国が合体したので、３つの国の国旗を合体した」と思いますよね。そうすると、「３つが分裂したら、それぞれもとの旗を使うんじゃないか」とぼくは単純に思います。

で、実際に分裂したのです。アイルランドは 1949 年に連合王国から分かれたのです。その時、アイルランドは(4)の聖パトリックの赤十字を国旗にしたのでしょうか？

それが全然ちがう旗を国旗にしたのです。十字架が全く入っていませんし、フランス国旗に似た縦の三色旗です。これが 1949 年から現在(1997 年)まで続くアイルランドの国旗です。

(6) 現在のアイルランドの国旗



一方で、連合王国から分かれていませんが、スコットランドの人はサッカーの試合にスコットランドチームが出ると、(2)の聖アンドルーの白十字旗を振って応援します。「これこそ自分たちの旗、スコットランドの旗だ」という意識があるのでしょうか。

なぜ、アイルランドの人は聖パトリックの赤十字旗を国旗にしなかったのか？ スコットランドの人は独立していないのに(2)の聖アンドルーの白十字を振るのに... ぼくには不思議でした。

3. 聖パトリック赤十字の由来は？

そんな疑問を持っていたら、森護『ユニオン・ジャック物語』中公新書に、衝撃的なことが書いてありました。202 ページです。

セント・パトリックはアイルランドの守護聖人として広く知られるが、その名を採ったセント・パトリック・クロスと呼ばれる「白色地に赤色の斜め十字」は、その名称を何と呼ぼうと聖人とは全く関係がないといえ、にわかには信じ難いだろう。事実英国人でさえそのことを知らない人のほうが多い。

アイルランドの守護聖人・聖パトリックのしるしである聖パトリック赤十字が聖パトリック本人と全然と関係ないなんて... じゃあ、聖パトリック赤十字はいったい何なのでしょう？

引用を続けます

そうした聖人にも住人にも全く関係のない斜め十字を、どうして、ユニオン・フラッグに採用し、かつこれを「セント・パトリック・クロス」と名付けたか。そこにはイングランドのアイルランドに対する差別、心情無視、そしてイングランドの都合優先の心根が露骨に現れているとし

かいいようがない。(203 ページ)

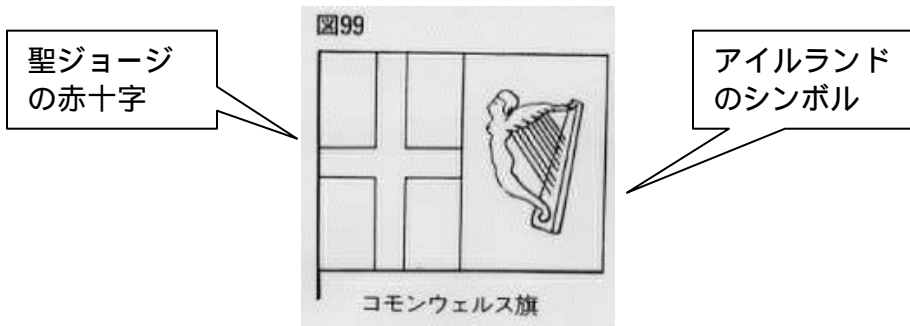
十字と斜め十字の組み合わせにハーブを重ねたのでは、図形としてのバランスを失うばかりでなく、イングランドが見下しているアイルランドをセント・ジョージ・クロスの上に重ねるなど、とんでもないということであろう。そして、1801 年まで、図形的にバランスがとれるセント・パトリック・クロスが使われなかったのは、そもそもセント・パトリック・クロスそのものがなかったからである。(205 ページ)

1801 年まで、(3) の聖パトリックの赤十字がなかったのなら、それまでのアイルランドの旗はどんな旗だったのでしょうか？

実は『ユニオン・ジャック物語』に、クロムウェル(王を倒して連合王国の支配者となった人、彼は王ではないので厳密に言うと彼の時代は「連合王国」ではない)の時代(1640~50 年代)の旗がのっているのです。

これは、イングランドとアイルランドの旗を合体した旗です(なぜかスコットランドがはずされている)。イングランドは(1)の聖ジョージの赤十字、ではアイルランドは... 職場のスカナで読み込んでみましょう。

(7) クロムウェル時代の旗



なんと、アイルランドは「ハーブ」です。1600 年代のアイルランドは事実上にイングランド王国に支配されていて、「アイルランド王国」としての国旗はなく、シンボルとして「ハーブ」が使われていたと思われます。

(3) の旗に(8) を重ねるとすると、図案的には(8) のハーブが上に重なってしまいそうです。

(3) 大ブリテン連合王国

(8) アイルランドのシンボル



(9) こんな図案も考えられた！？
幻の「大ブリテン・アイルランド連合王国」旗

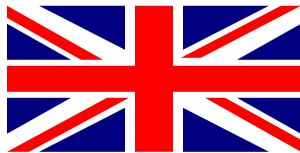


さらに引用を続けると、

世の中にはなかなかの知恵者がいるというか、窮余の一策というか、見事としかいいようのない図形が考え出された。これまでの図形が二つの十字であるからには、三番目のものも十字としなければならないとし、かつ彩色のバランスから考えて、それは赤色以外のものではありえないという前提から、「白色の地に赤色の斜め十字」をアイルランドとして加えることにした。しかもこれまでの二つの十字が、それぞれ聖人の名を付けて呼ばれているところから、それを真似てアイルランドの守護聖人の名を採り、「セント・パトリック・クロス」と名付けた。まことしやかというか、あるいは理屈は後からついてくるというか、巧妙な命名であったが、強引な命名でもあった。

まったくひどい話で、大ブリテン連合王国の旗に加えるのに好都合な模様「赤の斜め十字」をまず決定して、それにアイルランドの人が大切にしている人の名前を勝手につけて、「これで連合王国の名にふさわしく、3つの国の旗が見事合体しました！」と、したわけです。

(5) 大ブリテン・アイルランド連合王国



誰がやったのかはわからないけれども、これはイングランドのだれかがやったとしか考えられないということですね。

このように聖パトリックの赤十字は、アイルランドの人々にとって「自分たちの旗」どころか、たぶん「押しつけられた屈辱の旗」でしょう。連合王国から分かれるときに、聖パトリックの赤十字を使わなかったのは当然といえると思います。

話をややこしくして申し訳ありませんが、アイルランドが連合王国から分かれるときに、アイルランドの一部は住民の意志によって連合王国に残りました。この地域は現在「北アイルランド」とよばれています。

実は、連合王国の一地方としての「北アイルランド」の旗もあります。どんな旗を使っていると思いますか？

- ア.(4) 聖パトリックの赤十字
- イ.(6) 現在のアイルランドの国旗と同じ旗
- ウ.(7) アイルランドのシンボル、ハープの旗
- エ. その他

答えは、エ。(1) イングランド(聖ジョージの赤十字)の上に人の手がのつたような図案です。

北アイルランドの旗



4. 著者の大胆な推論

この聖パトリックの赤十字の由来があまりにショッキングだったので、ぼくは著者にその出典を尋ねてみました。

すると、出典はぼくが持っているホイットニー・スミス『世界旗章大図鑑』だという返事がきました。

該当部分は

182 ページ

イギリスの今のユニオン・ジャックに置かれている3番目の十字は、アイルランドの聖パトリック十字である。聖パトリックとこの十字の間に歴史的関連はないらしい。アイルランドでは昔から琴竪紋が有力で、国民色は緑である。ジェラルディン家などアングロ・アイリッシュ系のいくつかの有力な家族の紋章の特徴である、X十字が“聖パトリック十字”の基礎になったと推測する学者もいる。この十字は16世紀終りに初めて現れた。ユニオン・ジャックには1801年1月1日に組み込まれた。

ここから森さんは

- ・アイルランドに斜めの赤十字の旗を持つ家があったが、それはイングランドからの移民（アングロ・アイリッシュ）であり、斜めの赤十字はアイルランドの旗といえない

と、推論し

186 ページ

アイルランドにとって“聖パトリック十字”がどんな歴史的意義をもつのかは、全く謎に包まれていると考えてよい。しかし、1800年にアイルランドをイングランド、スコットランド両王国と平等の地位に引き上げたとき、イングランドとスコットランドを表すふたつの十字の上にアイルランドの縦紋を重ねて（この組み合わせは17世紀にクローンウェルが実行した）ユニオン・ジャックを修正するよりも、アイルランド十字を組み込むほうが好都合とされた。

・(3)の旗に(7)の縦(ハーブ)を重ねるより、(3)に聖パトリックの赤十字を組み込むようにしたのは、当時の力関係からいってイングランドの人だろう

と、推論したのでしょう。

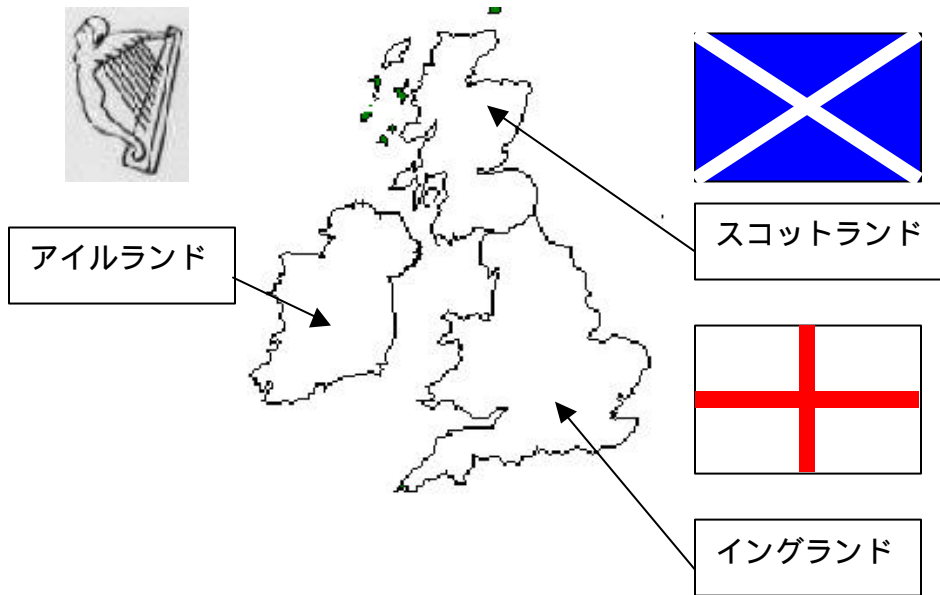
5 . 旗の変遷

なお、アイルランドの現在の国旗について、ホイットニー・スミス『世界旗章大図鑑』では次のように説明しています。

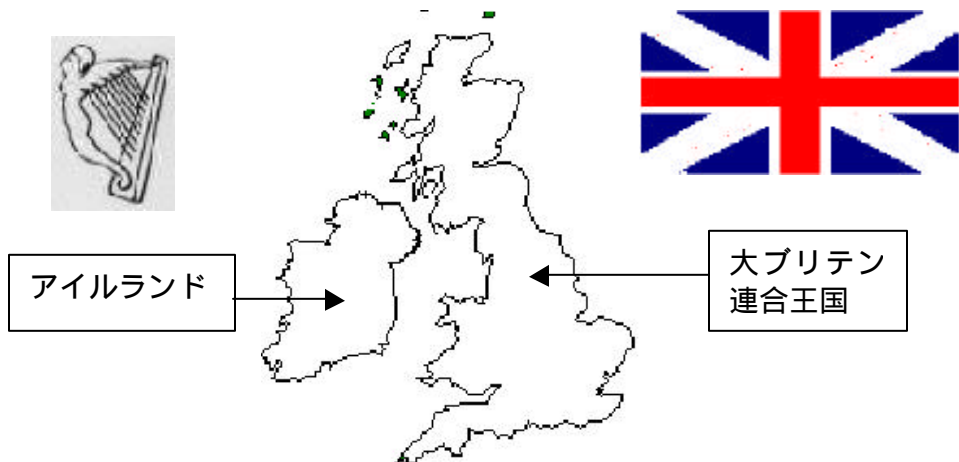
アイルランドはカトリック教徒が多数を占める国で、国土を制圧していたイギリスに抵抗する際彼らがひるがえした旗のほとんどに緑が使われていた。一方アイルランド国内のプロテスタントは、1690年のボイン川の戦いにおける国王ウィリアム 世の勝利以来、ウィリアムの仕着せの色であるオレンジを自分たちの象徴としてきた。19世紀になると、アイルランドの革命運動は、フランスの影響を受けて、平和をあらわす白筋をおいた三色旗を掲げるようになった。アイルランドは、1919年1月21日に独立を宣言して以来、この三色旗を国旗としている。

（正式採用は1937年12月29日）

1706 年まで



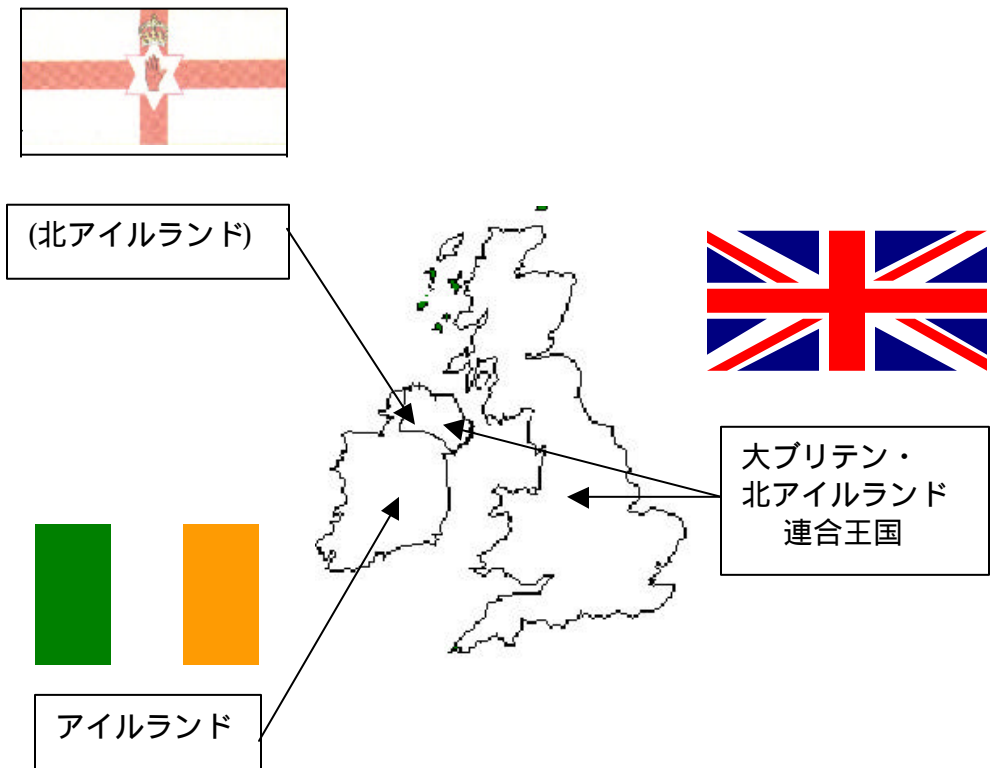
1707 年 ~ 1800 年



1801年～1936年



1937年～現在



6 . 合体した当時のアイルランドは？

板倉聖宣『世界の国旗』には

1801年には、「パトリックの赤十字」と呼ばれる国旗をもつアイルランド王国も合体することになって

と書いてあって、3つの王国があって、スムーズに合体したような印象を受けると思うのですが、当時のアイルランドは大ブリテン連合王国（イングランド&スコットランド）から独立した国とはいえない状態にありました。

まず議会ですが、1100年代からイングランドによるアイルランド侵略が始まり、イングランドの影響を受けて1297年にアイルランドに議会ができました。

大野真弓『世界各国史 イギリス史（新版）』山川出版社 459ページによると

しかし、アイルランドの議会の法案は、1494年のボイニングズ法によってあらかじめイギリス王および枢密院の認可を必要としていたが、ジョージ 世時代（1700年代はじめ：池田）以後は、本国議会（ロンドンのイングランド議会：池田）がダブリン（アイルランド議会：池田）の決議を拒否し、これに強制しうるようになったため、その従属性は更に強まっていた。加うるに植民地総督（1300年代から派遣されたようです：池田）は王の任命するイギリス人で、王に対してのみ責任を有しており、しかも彼は、有力な議員を買収して議会の自由を左右し得た。

となっており、アイルランド議会が（アイルランド島全域から議員が選ばれてきたわけではないが）1700年代には、イングランド議会の言いなりになっていたと言えます。

次に、「アイルランド王国」という国についてですが、同じく『世界各国史 イギリス史（新版）』413ページによると

1541年6月、グレーの後任セント=リジャーもまた議会を招集、ヘンリ8世（イングランド王：池田）に従来のアイルランド太守に代わるアイルランド国王の称号を贈ることが決議され、これが一般に公布された。

そうです。「イングランド王」が「アイルランド王」も兼ねることになったのです。

在日連合王国大使館御中

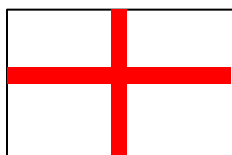
前略，北海道の公立高校に勤務する社会科教員で，池田毅司（いけだたけし）と申します。

連合王国の旗と祝日に関して，わからないことがあるので質問いたします。どうぞよろしく願います。

また，ほかによりよい情報を与えてくれる機関がございましたら，ご教示くだされば幸いです。

1. 現在の連合王国の旗は，イングランドの（1）とスコットランドの（2），そしてアイルランドの（3）が合体したもの（5）だと説明されています。現在の連合王国の旗において（3）はいかなる意味を持つのですか？

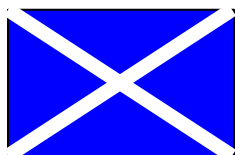
（1）イングランド
（聖ジョージの赤十字）



（4）大ブリテン連合王国



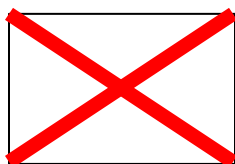
（2）スコットランド
（聖アンドルーの白十字）



（5）大ブリテン・アイルランド連合王国



（3）アイルランド
（聖パトリックの赤十字）



アイルランドは南部が独立し、現在は「北アイルランド」だけが連合王国に残っています。連合王国の旗は(5)の旗のままで変更がありませんから、(3)の旗は「北アイルランド」を象徴する旗として、連合王国の旗の中に残っているいると私は思いました。

ところが、ホイットニー・スミス『世界旗章大図鑑』平凡社(原題『Flags』)によると、「北アイルランド」の旗は、



(6) 北アイルランド

となっています。これでは、(3)の旗は現在の連合王国の旗(5)の中に存在する意味がないと思います。現在の(5)の旗の中で(3)の旗はいかなる意味を持っているのでしょうか？ 単なる、昔のなごりなののでしょうか？

単なるなごりだとすると、3つの旗がユニオンされてできたユニオンジャックですから、現在の(3)に意味がないのですから、(3)をはずして(4)を連合王国の旗にすべきだと思いますが...

2.3 月17日は聖パトリックの祝日ではないのですか？

『地球の歩き方 イギリス』ダイヤモンド社によると、1997年の祝祭日として、

- 3月1日 St. David's Day (ウェールズだけの祝祭日)
- 3月17日 Bank Holiday (北アイルランドだけの祝祭日)
- 4月23日 St. George's Day (連合王国全体の日)
- 11月30日 St. Andrew's Day (スコットランドだけの祝祭日)

などがあげられています。3月17日はBank Holidayとなっていますが、この日はSt. Patrick's Dayでもあります。

北アイルランドでは、聖パトリックの日としてお祝いしていないのでしょうか？ 北アイルランドではこの日は単なる銀行の休日なのでしょうか？

聖パトリックの日としてお祝いしていないのであれば、(5)における(3)聖パトリックの十字架の存在理由がますますないような気がいたします。または、『地球の歩き方 イギリス』の内容が誤っているのでしょうか？

1 つの国の国旗はその国の歴史や文化，国民の願いが込められもので，どの国の国旗もお互いに尊重すべきだと思っていますし，私も日本以外の国の国旗を尊重しています。

連合王国の国旗について，自分の考えと疑問を述べさせていただきました。連合王国のことをよく知らずに，その国の歴史や文化ならびに国旗について大変失礼なことを書いてしまったかもしれません。どうぞ，お許しいただければ幸いです。

以上 2 点質問いたしますので，よろしくお願いたします。

1997 . 12 . 18

池田毅司